

SDGs持続可能な地球社会&近未来の世界遺産を目指し

江戸城全体整備構想の策定並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくり

— V I S I O N 2 0 3 2 に寄せて —

歴史文化・水辺の資源を軸にした都市再生

I. 生活的創造力と持続可能な観光まちづくり

中島 直人 : 東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授

II. 21世紀の東京で「発見」する文化的価値

海野 聡 : 東京大学 大学院工学系研究科 建築額専攻 准教授

III. インタビュー —V I S I O N 2 0 3 2— に寄せて

矢野 和之 : 文化財保存計画協会代表
日本イコモス国内委員会 理事 事務局長

2022年（令和4年）5月

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

目 次

SDGs 持続可能な地球社会 & 近未来の世界遺産を目指し
江戸城全体整備構想の策定並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくり
—VISION 2032— に寄せて

I. 生活的創造力と持続可能な観光まちづくり

中島 直人 : 東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授

II. 21世紀の東京で「発見」する文化的価値

海野 聡 : 東京大学 大学院工学系研究科 建築額専攻 准教授

III. インタビュー —VISION 2032に寄せて—

矢野 和之 : 文化財保存計画協会代表
日本イコモス国内委員会 理事 事務局長

インタビュアー: 一財)江戸東京歴史文化ルネッサンス専務理事 内田久江

1. 江戸城外郭の正門跡にある常磐橋の修復が完成
2. 江戸城総構えから完成から 400 年、2,036 年に向けて
「史跡江戸城外堀跡の保存管理計画」とその意義
3. 全国的に進む「文化財保存活用地域計画」の策定は、今・・・
—歴史まちづくりの中核・歴史文化資源の保存・活用—
4. 日本最古の鉄道・世界遺産に匹敵する高輪築堤の全面保存を！
—国際的な注目を集める—国際イコモスのヘリテージアラート（遺産危機勧告）
文化遺産保護と再開発その情報公開
5. 神宮の森 1000 本の樹木伐採問題、都議会審議
—自然保護、文化遺産保護の法的なしくみと運用が必須—
6. Change.org インターネットで開催される市民の反対運動
7. ダイバーシティ：多様性と市民の目一声を上げる持続性こそが大切—
8. 歴史文化資源を活かした観光まちづくり
9. 新しい価値の創造—歴史的伝統文化を軸に社会や人々の豊かな生活へ
歴史視点を軸に都市の再生

I. 生活的創造力と持続可能な観光まちづくり

中島 直人 : 東京大学 大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授



1976年東京都生まれ。東京大学工学部都市工学科卒、同大学院修士課程修了。博士（工学）。東京大学大学院助手、助教、慶應義塾大学専任講師、准教授を経て、2015年4月より現職。専門は都市計画。主な著作に『都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート』（東京大学出版会、2018年、日本都市計画学会論文賞受賞／日本建築学会著作賞受賞）、『都市美運動 シヴィックアートの都市計画史』（東京大学出版会、2009年、東京市政調査会藤田賞受賞）、『コンパクトシティのアーバンイズム コンパクトなまちづくり、富山の経験』（共編著、東京大学出版会、2020年）、『アーバンリスト 魅力ある都市の創生者たち』（編著、ちくま新書、2021年）『都市計画家石川栄耀 都市探求の軌跡』（共著、鹿島出版会、2009年、日本都市計画学会石川奨励賞受賞）。

駆け足で観光地を巡るツーリズムだけでなく、長期滞在や二地域居住など、暮らすように観光する、あるいは観光するように暮らす時代が来ている。ツーリズムと生活との距離は確実に縮まっている。そうした時代認識に立ったとき、江戸東京の歴史文化資源を活かした持続可能な観光まちづくりを推進することと並行して、歴史文化資源を生かした地域ごとの、あるいは一人ひとりの生活のありようを見つめ直し、育んでいくことの重要性に思い至る。今、人が訪れたいと思う場所、地域は、歴史文化資源がある場所や地域ということだけではなくて、歴史文化資源と共生した豊かな暮らしがある、そうした暮らしを実践している人たちがいる場所や地域であろう。東京には歴史文化とともにある暮らしが今も息づく地域がある。

そして、何よりもそれぞれの地域の人たちが自分たちで地域の歴史文化資源を再発見し、その歴史文化資源を暮らしに活かしていく、そのことを応援することに力を注ぎたい。その結果として、持続可能な観光まちづくりが展開されていくのではないだろうか。

この四半世紀の情報社会の進展は、人びとと歴史文化資源との新たな付き合い方、楽しみ方を生み出してきた。少なくとも情報としての歴史文化資源に触れるのが容易になったことで、土地に根ざした歴史文化資源への関心の裾野は広がっているように思える。

さて、情報社会の次に来るのはどのような社会だろうか。その一つの方向性として、自分たちでどれだけつくれているかが豊かさの中心、楽しみの中心に来る社会として創造社会が提唱されている。歴史文化資源とともにある生活にこそ、その創造という能動的行為、思考が求められているように思う。

私たちは歴史文化資源とともにあることで、いかに豊かな、幸福な生活を送ることができるのか。歴史文化資源を巡って発露する東京の生活的創造力、それこそが持続可能な観光まちづくりの肝である。逆に言えば、その生活的創造力なるものを通じて、一人ひとりが東京の持続可能な観光まちづくりに参画しうるのである

II. 21世紀の東京で「発見」する文化的価値

海野 聡：東京大学 大学院工学系研究科 建築額専攻 准教授



1983 年、千葉県生まれ。2008 年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。2009 年奈良文化財研究所研究員。2018 年 10 月より現職。日本建築史博士（工学）。法隆寺・延暦寺から民家まで、幅広い歴史的建造物の調査・研究や発掘調査からの建物の復元などを手掛けるかたわら、古建築の魅力や見方を広く伝える活動を続けている。著書：『奈良で学ぶ 寺院建築入門』集英社、2022 年、『森と木と建築の日本史』岩波書店、2022 年、『日本建築史講義 木造建築がひもとく技術と社会』学芸出版、2022 年他。日本イコモス木の委員会副委員長・建築史学会編集委員等他多数。

東京にも数多くの文化遺産があるが、現代の東京に江戸を見る人は少なからう。その多くは「眠っている」のである。むろん、皇居周辺の江戸城の門や石垣・浅草寺・寛永寺など、目につきやすいものは文化的な価値を我々も感じ取りやすいが、それは歴史の積層の表層分のごく一部に過ぎない。

文化的価値。それは自然に見えてくるのではなく、「発見」され、認知されることで、顕在化するのである。

近年、話題になった高輪築堤は記憶に新しかろう。高輪築堤は明治 5 年（1872）の鉄道開業の際に、海上に線路を敷設するために築かれた鉄道構造物で、品川駅の改良工事に伴って発見されることで新たな価値付けがなされ、令和 3 年に国指定史跡となったことで話題となった。地下に埋まっているものは、文字通り、「発見」される必要があるのだ。

地上にあっても、その価値が十分に認知されているとは限らない。例えば墨田区の猿江恩賜公園は野球場やテニスコートなどを備えた 14ha を超える広大な公園であるが、そこに江戸以来の歴史が詰まっている。隅田川の東側は 17 世紀後半に開発が進み、この猿江にも幕府の材木場が設けられた。明治に入ると、皇室の御用木の貯木場となり、昭和 7 年（1932）に猿江恩賜公園として開園した（拙著『森と木と建築の日本史』岩波書店、2022 年）。木材の運搬にとって河川は重要であるが、ここでも周囲を見渡すと、隅田川からつながる小名木川・横十三間川など、水運の便が良い地であることがわかる。

江戸では大火や地震など、災害も多く、破壊と再生を繰り返しており、猿江の貯木場はその再建を支える拠点であったのである。同じ貯木場でも、木場はその名から木材の集積地であったことをうかがえようが、猿江恩賜公園のように、「見えにくい」場所も、その歴史を紐解くことで、過去への理解が深まり、そこから江戸の情景を想起することができる。そして周囲の河川、さらにはその先にある木材の流通まで想いを廻らせることができよう。

このように現代東京で歴史性を感じることも少ないが、それ自体は歴史の積み重ねの結晶であり、痕跡は身近に存在している。埋もれた歴史のカケラを掘り起こして明確化することで、新たな価値を「発見」し、その魅力に触れることができ、現代東京はその可能性に満ち溢れているのである。

Ⅲ. インタビュー —VISION 2032に寄せて—



矢野 和之： 文化財保存計画協会 (<https://www.b-hozon.co.jp/>) 代表
日本イコモス国内委員会 理事 事務局長

1946年熊本県西原村生まれ。1969年武蔵工業大学（現東京都市大学）工学部建築学科卒業。同大学修士課程、博士課程を経て、(株)文化財保存計画協会を設立。文化遺産の保存活用の調査・計画・設計監理や歴史的建造物の復元設計にあたる。『歴史廻廊都市くまもと』の策定（1989年）、熊本城宇土櫓保存修理工事（1990年）に携わった。著書に『空間流

離』、『歴史のまちのみちづくり』、『甦る古墳文化』など。

* (一社)日本イコモス国内委員会 (<https://icomosjapan.org/>) とは、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関として、1965年に設立した世界遺産登録の審査、モニタリングの活動を行っている国際的な非政府組織（NGO（ICOMOS））の国内委員会で、文化遺産保存分野の第一線の専門家や団体470の関係者が様々な活動を行っています。

1. 江戸城外郭の正門跡にある常磐橋の修復が完成

内田：矢野代表は、このテーマに主体的に関っておられたと伺っております。

矢野：東日本大震災で、クラックが入ったり石がずれたりしており、史跡なので、文化庁も呼んで解体修理は直ぐやろうということで、去年修理工事が終わり今報告書を作っている最中です。一方、超高層ビルによる再開発が常磐橋の直ぐ横になります。常磐橋は、史跡なので、破壊されることは有りませんが、超高層ビル群は民間中心の開発です。常磐橋門の写真が残っていたりしますので、整備委員会を作って、検討するという事になっています。都市中心部の史跡をどのように文化遺産を資源として保存活用していくか、その全体像が、今まさにテーマになろうかと思っております。

***常磐橋は、天正18（1590）年の架橋で、東京では最も古い橋のひとつです。常磐橋門の見附橋として活躍しました。大正12（1923）年の関東大震災で被災した際は、実業家 渋沢栄一氏の支援で修復されたそうです。

先代の橋は、明治10（1877）年に建造されましたが、老朽化が激しく、車道橋の役割は常磐橋に譲りました。人が渡るばかりの橋となっていました。東日本大震災以降は立ち入り禁止となっていました。平成19（2007）年3月28日に千代田区景観まちづくり重要物件に指定されました。

東日本大震災後の修復工事が完成し、令和3（2021）年5月10日、10年ぶりに通行が可能となりました。長さ28.8m、幅12.6mで、庭園にあるものを除けば、都内に現存する最古の石橋です。*参考：千代田区観光協会

2. 江戸城総構え完成から 400 年、2036 年に向けて

—「史跡・江戸城外堀跡の保存管理計画」とその意義—

史跡江戸城外堀の再生が進められています。江戸城が最大の近世城郭であることを確認できる歴史遺産あると共に、現在に至る迄、都市の骨格として継承されてきたことにより、東京が 400 年に亘って維持されて来た“歴史文化都市”であることを、実感できます。

内田：矢野代表は、史跡・江戸城外堀跡の保存管理計画（千代田区・新宿区・港区）に関わって来られたと伺っております。

矢野：1636 年に外堀がつくられ、それによって江戸城全体（総構え）が完成しました。1636 年だと寛永年間です。それから 400 年が丁度 2036 年です。

外堀の史跡全体の整備が 2036 年を目指したということは、史跡江戸城全体を視野に入れて計画を行うことです。それと同時に、江戸の水循環の歴史的遺産であり、玉川上水から外濠への通水を行うことと同時に、水質改善問題も、2030 年から 40 年に向けて行われるということですから、そういう意味では、事態が動き始めていることを実感します。外堀の整備計画にしても、常盤門の問題も都市の再開発の現状を見る時に、やはり、史跡の本質的価値を明確にして、もう少し文化遺産を守る活用するという所に力点を置いた、「法的な仕組みやそれらのソフトを動かしていく側面も取り組み」きちんとしていかないと、という危機感がありますね。

長年、地道な活動を進めた法政大学や 3 大学が、外濠再生懇談会等を始めとする産学官市民の果たした役割も大きいと感じます

保存計画により外濠、内堀は江戸時代以来の歴史歴風土を形成する地域として継承され豊かな緑地・水辺として、さらに、これからも多くの人々に親しまれていけたら良いですね。

内田：「史跡江戸城跡保存管理計画」では、単に外濠だけではなく、江戸城跡との一体性を高めつつ、目指すべきは、石垣、城門、土塁、見附の復元、将来的には巨大城郭としての江戸城復元へと繋げていくとありますので、今後の取り組みが、大いに、期待される場所ですね。

3. 全国で進む「文化財保存活用地域計画」の策定は、いま

—歴史まちづくりの中核・歴史文化資源—

京都府及び京都市は、2019年に策定されて、府と市の連携が読み取れ総合的なパワーにつながっているようです。訪れる側から、京都全体像が明確です。

矢野：全国的に文化財保存活用の地域計画を作るようになっており、東京都の場合は、千代田区をはじめ各区で地域計画をもう作り始めているのではないか。地域計画は、各区がばらばらになるので、それを都が全体的に調整していくということは必要だろうと思います。旧江戸城ですと、恐らく23区内の中心的な所の計画が必要になると思いますが、その辺を東京都が調整していくという必要があると思います。東京都は一応メインになる場所ですから人の拡充が必要ではないかと思います。そこは上層部の方できちんと考えないといけないかも知れませんね。

内田：例えば、文化庁の予算も少ないですね。東京都や区、関係省庁などとの歴史文化資源に関わる窓口と面談を進めてまいりました。担当者のご努力や懸命さは感じ伝わってきます。しかし、日本では行政をはじめ、トップマネジメントの段階で、残念ながら、国として各行政として、文化や文化遺産の本質的な価値が明確にされ、それらの共有がなされていないのではないかと感じてきました。

フランスでは戦後すぐにドゴール大統領が文化大臣を置くなど強力なリーダーシップを発揮して国家予算の1%を確保し、文化政策の目的も教育啓蒙から「接する機会の向上」と大きく転換したといわれています。

地方の行政官も10倍に増やす等、現在に至るまで名実共に文化観光大国になっています。「経済的グローバリゼーションにあっても文化は単なる商品ではなく例外扱いすべき」という強い主張「文化的例外」となっているといわれています。日本文化は十分に値する歴史的文化があると思いますが。

＊ ＊ 「文化財保存活用地域計画」は書く市長孫において取り組む目標や取り組みの具体的な内容を記載した、文化財の保存・活用に関するアクションプランです。文化庁では「地方公共団体が「文化財保存活用地域計画」を作成する際の基本的な考え方や留意事項等を指針として取りまとめています。

4. 日本最古の鉄道・世界遺産に匹敵する高輪築堤の全面保存を！

—国際的な注目を集める—

日本考古学会保存計画見直しを！

NGO イコモスのヘリテージアラート（遺産危機勧告）

文化遺産保護と都市の再開発及び情報公開が課題

内田：日本考古学会などから、保存計画の見直しを提言されています。

矢野：日本イコモスも提言を出しましたし、国際 NGO イコモス監査の方から、文化資産アラート出されることになりました。日本考古学会などからも提言を出して、一昨日、このことに関してシンポジウムをやりましてね。JR東さんには、直接イコモスとして提言をしています。計画の変更が一部おこなわれましたが、それ以外は無理だということが現状でしょう。現在、発掘は一部史跡として保存、その他は殆ど解体されるということなので、なかなか辛いところもあります。鉄道を新橋、横浜間をずっと敷設するわけですが、それも一部海の上に敷くんですね。これは世界的にもそう無い構想で、世界遺産に匹敵します。

今回よく残ってる第7橋梁は部分的にビルの方をずらして入るようですが、全体からするとほんの一部を残すことになっています。要は鉄道ですから、線として残ってることに非常に価値がある訳で残念です。しかし、発掘の初期の段階から情報がオープンになっていれば、随分違っていたと思います。本来は、文化遺産を取り込む必要が文化遺産を壊していくことになってしまっています。

内田：ヘリテージアラート（遺産危機勧告）は、どの程度、厳しく国に対して求められるものなのでしょうか？

矢野：国際イコモスが出したアラートですね。日本の法律上には関係しないところなので、「国際的に皆さんに知って貰うということと、国際的にも非常に重要だということで懸念していますよ。」ということです。アラートを出してどうなるものでも無いのが残念です。世界遺産であれば世界遺産は条約ですから、条約締結国が守る義務がある。世界遺産で無いものには、意見表明に近いものになりますね。

内田：高層ビルは主にオフィスと聞いています。コロナ禍前の都市計画ですよ。

超少子超高齢化やデジタル化の時代に開発を続けるのでしょうか。コンクリートはせいぜい 50 年程度でそれ以降の資産価値は下向にあり、世界遺産になれば資産価値は年々上がり続けるといわれています。

5. 神宮の森 1000 本樹木伐採問題は、都議会での審議へ

都市の再開発と自然保護・文化遺産保護など法的なしくみと運用が必要

—市民の危機感・反対運動と情報開示—

矢野：神宮外苑の樹木 1000 本を伐採するという問題では、市民運動でも大分反発があります。都市計画自体は、もう変わらないと思いますが、都市計画決定がされる時点で公になるものですから、これは意図的かどうかは判りません。

しかし、情報の開示が大きな原因ですね。もう“にっちもさっちも”行かなくなって情報が上がっても、異議のある側からすれば、負け戦になってしまう訳です。

再開発は、情報開示のプロセスに問題があります。神宮外苑の問題も開発手前の段階で、都市計画が決定がされたということです。

内田：多種品種の神宮の森には、造園学者・先人達の知恵、時間、全国の市民からの献木、ボランティアを投入したと云われています。横浜の桜並木の桜を伐採する動きも、異議がだされています。

矢野：基本的な計画が変えられないと、せいぜい“点で残す”という感じになることは事実ですね。遺跡が出て来た時に、開発者側が事実やデータを掴んでる訳ですから、それを速やかに開示して貰うということが、大事なことだろうと思いますね。このようなことは、あちこちで聞かれるんでしょう？

＊ ＊ 神宮の森 1000 本樹木伐採—都心につくられた 150 年構想の森を再開発
野球場、ラグビー場、中央広場、ショッピングモール等を建設
再開発は、三井不動産、明治神宮、日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事等

日本全国から 365 種、10 万本、延べ 11 万のボランティアによる 150 年構想の人口の森
献木された一本づつには歴史と意思があり代変えは聞かないと SDGS・自然保護、文化遺産等からの
反対運動が起こっている。詳細はインターネットをご覧ください。

6. インターネットで全国的に広がる市民の声（異議・反対運動）

自然保護、文化財、人権等多様なテーマ

—Change.org（チェンジ・ドット・オーグ）オンライン署名サイト—

内田：そうなんですよ。SDG sの影響もありますね。若い人が敏感ですよ。気候破壊、自然保護、文化遺産など様々な課題に対し市民による異議や反対運動がみられます。特に、この数年 Change.org インターネット上でも全国的な広がりがみられます。確かに情報開示のしくみを運用上の題に関わることが、そこでも課題となっています。

一方、開発する行政や業者は、開発決定時点の情報開示を短期間にしたい理由を 明確にすべきと異議を出しています。

矢野：日本の場合も、例えば文科省の中庭に石垣を残したり、地下鉄の駅の一部にほんの少し残したということをやっていますが、開発の時に文化遺産を絶対に取り入れようという意識の高まりや文化遺産を守り、活用するという処に力点を置いた、法的な仕組みやそれらのソフトを動かしていく取り組みが、きちんとしていかないと“いけない”という危機感が、ありますね。

内田：東京戦略ビジョンでは「SDG s、水と緑に溢れ世界に誇れる東京を目指す」とあります。しかし、一方で市民不在の進め方での再開発ということになりますと市民の反発は増幅しています。開発する側の行政や企業への信頼性や企業イメージにも、既に、様々な影響が出ているようですね。

世界遺産に匹敵し、ヘリテージアラートが出されているにも関わらず、埋蔵文化財を壊すような状況にあることは、一方で、文化資源の保存活用の推進をしています。この状況は相反すると思います。

関係する行政やトップマネジメントは、埋蔵文化資源についても、どうしたら保存活用できるのか、速やかにガイドライン等の具体策を出していただきたいですね。

* * —Change.org（チェンジ・ドット・オーグ）オンライン署名サイト—

アメリカ発のオンライン署名サイト世界で4億人が離党、チェンジの拠点があるのは20か国、チェンジを通して声を上げる人たちが日本で急増している。無料でキャンペーンを立ち上げることができる。名前とメールアドレスを登録すればだれでもワンクリックで署名できる。日本の伸び率は世界一番となっている。

7. ダイバーシティ・多様な歴史文化資源と市民の目

—持続的に声をあげる事の大切さ—

矢野：文化的資産というものは、文化財保護法の中の資産だけではなく、指定されていないものを評価し、活用しようとしておりますね。多様な価値を、どこに求めるのかということは、様々な人の意見を聞かなければと思います。ダムツアー、ヘリテージツアー、ダークツアー等や産業景観みたいなものも対象になったりしてますので、そういう発見の仕方というものも、必要なことかも知れないですね。そういう多様な視線があるという時代に入って来た実感がありますね。

内田：ある日突然、特に多くの若い人が集まっているのも感動を探しているのですよね。文化資源に光を当てる探し方ですね。

ある区長さんが赴任早々に始めことは、各部局を超えた横断的な組織をつくり、どんな観光などの素材があるのか、と云う観点で、職員自ら、街歩きをしています。文化観光資源を探す地道な“環境づくり”は素晴らしいと思います。区長さんのリーダーシップ、市民や地域の使命の高まりを感じます。

矢野：そうですね。多様な視点、市民の目線で、“物申していく”ことが大事ですね。

内田：霞が関や都庁のビルから、地域（区・市町村）を多様な目で見るとことは、困難でしょう。東京都は、地域を活かし支援する。地域は市民を支援する。市民は多様な目で声を上げていくことが大切なのですね。そして、持続性が求められますね。

東京全体を自然や歴史文化圏を俯瞰して見たら、東京こそ未発見の固有の魅力があります。世界の首都はその国の個性、歴史的伝統と文化で熾烈な競争をしています。

東京の個性や歴史性がうすれて、既に、東京はパッシング（通過都市）されているのではないかと危惧を感じています。

ホテル関係者からよく聞きますが、「京都・奈良・神戸、あるいはその他地域の文化圏に中長期滞在して東京はその前後の1泊程度の宿泊となっている。」と。

国土交通省や観光庁、東京都の資料でも、東京以外の地域に滞在する旅行者が近年、大幅に増えていると明示しています。

8. 江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりに向けて

—保存活用の具体化へ—

矢野：SDGs にとっても歴史文化資源の保存活用や気候変動の下で、自然保護はとても重要な課題になっていますね。ユニークベニューもヨーロッパでは、よくやられている。韓国も結構やっているみたいですね。

内田：国の宝、誇りとして文化遺産を保全して、文化観光が光に当てる工夫がされています。海外を旅行して感じることはエリアでの分断はなく、地域全体を文化圏としています。業務の効率化もはかられ経済波及効果も高いでしょう。

同時に市民ボランティア活動が盛んですね。

スコットランドのレストランで、むき出しの城の石垣について滔々と誇りを持って、支配人が説明していました。まさに語り部です。歴史建造物や美術館・博物館、史跡などについても、イギリスやフランス等を始め、多くの国で会議やイベントの開催、宿泊の事例があります。

江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの構想や具体化が、愈々必要になりますね。江戸東京は、新しい文化に加えて世界に類を見ない独自の魅力的なものが、沢山ある訳ですから・・・。

9. 新しい価値の創造 —歴史文化を軸に、社会や人々の豊かな生活へ

地球規模の自然破壊・格差社会等の環境変化への対応—

日本は高度経済成長の下、スクラップ&ビルドによる高層ビルや商業施設などによる再開発優先の経済成長を求め続けてきました。現在、世界の環境は一変しています。

超高齢化と超少子化に加えて、コロナ禍、進む気候破壊、格差問題、デジタル化の波、加えてウクライナ戦争など、経済の急成長はもはや無いこと等、大きな環境変化が地球規模で起こっていることは、多くの人々が実感しています。

都市の開発も SDGs ですね。自然や文化遺産保護の新たなしくみや運用、即ち、ハードもソフトを求められているのですね。

特に歴史的伝統文化の資源を軸にした首都再生の道を切り拓くことは世界的なトレンドでもあり重要な時期に来ています。

現在、世界の観光事情は大変に厳しい状況です。しかし、歴史文化や観光を基軸とする価値が、経済や人々にとって誇りや生活を豊かにするという時代になってきたことも事実ですし、多くの人々は、肌感覚で理解しているのではないのでしょうか。

今日はありがとうございました。(完)

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

〒102-0075 東京都千代田区三番町 1－16 Eメール：zaidanedojo@gmail.com
ホームページ <https://zaidan-edojo.or.jp/> FAX : 03-3977-3510

※現在、デジタル化の推進や新型コロナウイルス対策のため、テレワークを中心に活動いたしております。
ご用の際はEメールもしくは郵便にてご連絡頂けましたら幸いです。